



写真左から硯見ひなたさん、荒沢宗汰さん、大津華花さん

楽しい学校

心をひとつにした演奏を

荒沢 ^{そうた}宗汰さん（訓中2年 栄 町）
 大津 ^{はなか}華花さん（訓中2年 東 町）
 硯見ひなたさん（訓中2年 旭 町）

部長として、さまざまなイベントに向けて日々の練習を大切に、気持ちを切り替えて練習することを心掛けています。

これからは全体を見ながら、部員を引っ張っていきたいです。

将来は、自分の個性を生かした仕事につき、今まで続けてきた音楽を趣味として両立したいです。（吹奏楽部部長 荒沢さん）

副部長として、全体練習のときに、練習時間を

守り、部員がやりがいを感じられるよう日々、心掛けています。

将来は、警察官の知り合いから話を聞いて、興味を持ち、大変な仕事ですが、警察官になりたいです。（吹奏楽部副部長 大津さん）

音楽リーダーとして、歌で音程感覚をつかむためのアドバイスをしながら、全体の音程を正す練習を大切にすることを心掛けています。

将来は、訓子府町図書館の雰囲気が好きで、司書の仕事に憧れているので、図書館司書になりたいです。（吹奏楽部音楽リーダー 硯見さん）

人いきいき

受賞を励みに安定した酪農経営を

渡邊 繁敏さん（西 富 72歳）

「令和4年度第55回宇都宮賞」を受賞した渡邊さん。「これからも、賞に恥じない安定した酪農経営を続けていきたいです」と今後の抱負を話していました。

「宇都宮賞」は、「北海道酪農の父」と言われる宇都宮仙太郎氏の功績にちなんで、昭和42年に宇都宮仙太郎翁顕彰会が設立されました。

同顕彰会では、北海道酪農の振興発展に寄与した功績者を「酪農経営、酪農指導、乳牛改良」の3部門で毎年、宇都宮氏の命日に当たる3月1日に表彰しています。

町内では横川廣さん、龍田彌太郎さんがともに「乳牛改良」の部で受賞、渡邊さんで「宇都宮賞」は3人目となり、「酪農経営」の部では初の受賞となります。

「祖父が酪農経営を始めて、自分で3代目です。幼少時から酪農の手伝いをしており、中学卒業と同時に就農しました。31歳のときに経営委譲を受け、平成29年の経営法人化を機に、フリーストール牛舎の建設と搾乳ロボットを導入、作業の効率化に取り組んできました。そういう中で、牛乳の単価が下がり、生産調整のために生乳を廃棄したときはつらかったですし、飼料価格高騰も大変でした」

「長年、ホルスタイン共進会に参加していますが、出品した乳牛が最高位を含め、上位入賞したことは大変光栄に思います。共進会の参加を通して、全道をはじめ、全国に仲間ができました。町内には同級生をはじめとする酪農仲間もいますので、これからも横のつながりを大切にしていきたいです」

「現在、酪農業を取り巻く環境は大変厳しいですが、受賞を励みに、今後も健康に注意して、安定した経営努力を続けていきたいです」



短歌 訓子府短歌会

あと二枚「ババ」が見ゆとて
 孫にばれわざとちらりも笑ひを誘ふ
 東幸町 中島 玲子

ギシギシと鳴って居るかな流氷は
 凍れば思はる白き海原
 東幸町 吉野 良華

次になふ子らの未来に想ひして
 窓越しに見る園児の戯むれ
 旭 町 瀬谷 隆夫

背比べ孫の名前刻みたる
 食器棚をばなぞり眺むる
 日 出 山内スミエ

雪の庭ピーヨピーヨとヒヨドリ
 鳴く声聞こゆ春を呼ぶがに
 西 富 山本 祐一

わが町の町民劇に出演の
 おじさん二人の演技に絶賛
 清 住 太田 豊

主なき向日葵の咲くウクライナ
 心の傷の癒へる日はいつ
 西幸町 乃里子

遠き日の千島を語る友人の
 今だ叶わぬ想ひ切なし
 大 町 佐藤 幸子

人々の賑わひさめてわれ一人
 旅のスワンと日がな戯むる
 大 谷 昆野 範雄

— 表紙から —

卒業おめでとう！

3月15日に行われた「訓中卒業式」の
 写真です。

この写真をプレゼントしますので、ご
 希望の方は4月28日(金)までに、役場総務
 課窓口へお越しください。

